

研究から社会実装へ、世界のヒューマノイド産業を牽引するリーダーが東京に集結 「Humanoids Summit Tokyo 2026」 イベントレポート

Humanoids Summit Inc.（本社：アメリカ・カリフォルニア州）は、ヒト型ロボット（ヒューマノイド）とフィジカルAIに特化した国際カンファレンス「Humanoids Summit Tokyo 2026」を、2026年5月28日（木）～29日（金）の2日間、高輪ゲートウェイコンベンションセンターにて開催いたしました。

シリコンバレー、ロンドンに続くアジア初開催となった本サミットには、世界30カ国以上から約2,000名以上が来場。企業、研究機関、スタートアップ、投資家、政策関係者など、ヒューマノイド産業を牽引するプレイヤーが集結し、ヒューマノイドとフィジカルAIの社会実装に向けた議論や、ライブデモンストレーションを実施しました。

近年、労働力不足や人口動態の変化といった社会課題を背景に、ヒューマノイドロボットは研究・実験段階から実社会への導入フェーズへ移行しつつあります。研究開発だけでなく、量産化、政策、投資、導入環境の整備まで議論の対象が広がる中、本サミットでは日本・東京を舞台に、次世代産業の可能性についてグローバルな議論が交わされました。



■アジア初開催の幕開け、東京から描くヒューマノイドの未来

オープニングでは、Humanoids Summitの創設者兼会長であるモダル・アラウイ氏に代わり、Bay Area Robotics Association（BARA）のエグゼクティブディレクターであるテレンス・ベネット氏の開会挨拶で幕を開けました。

ベネット氏は、日本が有するロボティクス分野の優れた人材、技術革新力、そして産業界におけるリーダーシップといった独自の強みを強調するとともに、Humanoids Summitを東京で開催することの意義について語りました。

続くオープニング基調講演では、大阪大学ATR知能ロボット・コミュニケーション研究所 所長の石黒浩氏が「ヒューマノイド、インタラクション、そして実社会への展開」をテーマに講演。自身のGeminoidを用いたデモンストレーションを交えながら、人間理解とロボット共生の可能性について語りました。



■世界のトッププレイヤーが語る、ヒューマノイドの現在地と未来

2日間を通じて、AI、ロボティクス、政策、投資分野を代表する国内外のリーダーが登壇しました。

1日目は、McKinsey & Companyがヒューマノイド市場の商業化に向けた課題を分析したほか、Disney Researchが人と感情的につながるロボット設計、Sanctuary AIが労働力不足を補う汎用ヒューマノイドの可能性について紹介しました。

また、日本企業・団体からも、GMO AI & Roboticsが国内導入の最前線、本田技術研究所が次世代ロボットハンド技術、トヨタ自動車ヒューマノイド研究の未来像について発表。経済産業省からは、日本のAI・ロボティクス政策に関する講演が行われました。

2日目には、基調講演として、Google DeepMindがAIモデルとロボティクスの融合による次世代ロボットの可能性を提示。さらにBoston Dynamicsは国家ロボティクス戦略、Mentee Roboticsはシミュレーションと現実環境の接続、Unitree Roboticsはロボットのスケール展開、Bloomberg Televisionのモデレーターを迎えたファイヤーサイドチャットでは、Cooley LLPの専門家が登壇し、ヒューマノイドロボットの安全性や社会実装に向けた課題、規制のあり方について議論が行われました。

また、投資家セッションでは、ヒューマノイドおよびフィジカルAI領域における今後の投資トレンドや資本の流れについても議論され、技術だけでなく産業全体の成長可能性についても活発な意見交換が行われました。

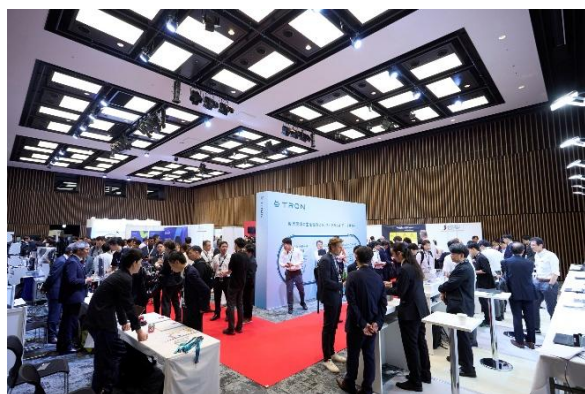


■企業展示ブースでは最新技術やライブデモンストレーションを披露

展示エリアには約50ブースが出展し、ヒューマノイド、フィジカルAI、自律システム領域における最新研究成果や製品、サービスを展示しました。

会場では様々な企業の実機デモンストレーションが行われ、来場者は実際に動くヒューマノイドやAIシステムを間近で体験。研究開発段階にとどまらない、実社会での活用を見据えたユースケースも多数紹介されました。

また、展示会場内では企業・研究機関・投資家間で活発なネットワーキングが行われ、新たなパートナーシップやビジネス機会の創出につながる交流の場となりました。



■主催コメント（Humanoids Summit 創設者兼会長 モダル・アラウイ氏）

「Humanoids Summit Tokyoは、ヒューマノイドおよびフィジカルAIを取り巻く世界的な機運の高まりを示す場となりました。初の東京開催を成功に導いてくださった、世界各国からご参加いただいた登壇者、スポンサー、出展企業、パートナー、そして来場者の皆さまに心より感謝申し上げます。

日本は長年にわたりロボティクス分野の発展を牽引してきました。そのため、業界が大規模な社会実装・普及フェーズへと進む中で、世界中のヒューマノイドエコシステムの関係者が集う場として、東京は非常にふさわしい開催地であると考えています」

■シリコンバレー、そして再び日本へ。Humanoids Summitの次なる舞台が決定

Humanoids Summitは今後も、ヒューマノイド、フィジカルAI、自律システム分野におけるグローバルな議論と産業連携の促進を目指し、継続的に開催してまいります。今回は、第5回を2026年12月にシリコンバレーで、第6回を2027年5月に東京で開催することが決定しています。

研究者、企業、投資家、政策関係者など、世界各地のリーダーたちとともに、次世代知能機械の社会実装と未来を形づくる議論をさらに加速してまいります。

なお、第5回および第6回Humanoids Summitでは、スポンサー・出展企業・コラボレーションパートナーの募集を開始しております。ご関心をお持ちの方は、下記までお問い合わせください。

スポンサー／出展／コラボレーションに関するお問い合わせ

谷口 華美瑠（Kamiru Taniguchi）

E-mail : kamiru@humanoidssummit.com

■Humanoids Summitについて

Humanoids Summitは、ヒューマノイド、フィジカルAI、自律システムに特化した国際カンファレンスです。シリコンバレーおよびロンドンでの開催実績を有し、テクノロジー、産業、政策分野のリーダーが一堂に会し、人間の生活環境で稼働する次世代の知能機械の未来を形づくる議論を行っています。

■お問い合わせ

- ・ 参加登録 : <https://humanoidssummit.com/register>
- ・ スポンサー/出展/コラボレーションに関するお問い合わせ : 谷口華美瑠 (kamiru@humanoidssummit.com)